船引小児童の新しい目標

船引小学校長　安生昌弘

始業式の時に船引小の教育目標の話をしました。覚えてますか。「思いやりのある子ども」「よく考えてしっかり学ぶ子ども」「進んでからだをきたえる子ども」の3つでしたね。何も見ないでスラスラ言えるかも訊ねました。覚えるのって結構難しいでしょ。目標というものは，覚えていて，いつでもそれを意識して生活していないと，あまり意味がありません。そこで，覚えやすい，新しいみんなの目標を創りました。「思いやりのある子ども」は『やさしく』，「よく考えてしっかり学ぶ子ども」は『かしこく』，「進んでからだをきたえる子ども」は『たくましく』です。合わせて『**やさしく　かしこく　たくましく**』，「や」「か」「た」と覚えてください。

今日は，その一つ目「やさしく」つまり思いやりのことについて話します。先月の23日に船引小の「一年生を迎える会」がありました。6年生を中心に上級生のみんなが1年生に喜んでもらおうと準備をして大変良くダンスや演奏をしてくれました。誰かの為になることを進んでやることは思いやりを行動に移すことですから，まずは1年生にやさしく出来ましたね。教育目標達成への階段を一歩，上ることが出来たと思います。

ところで**『情けは人のためならず』**という「ことわざ」があります。どんな意味だと思いますか。「情け」とは「人の情けを知って涙が出る」のように「優しさ」とか「思いやり」のことです。そうすると，「優しくすることは人のためにならない。かえって，厳しくする方がその人が成長することになるのでよい。」という意味になってしまうのでしょうか。

この前の日曜日にこんなことがありました。私はホームセンターにボールペンの替え芯が欲しくて買い物に出かけました。ボールペンの替え芯を1本，手に取るとレジに並びました。日曜日なのでレジにはカゴにたくさんの品物を入れた人たちが長い列を作っていました。みんな自分の前の人のカゴの中身のたくさんの品物を見て，いやそうな顔をしています。よほど忙しいのか，みんな少しでも早くレジでの会計を終わらせたいと思っているのですね。

ずいぶん長い時間が経って，ようやく私の前に並んでいる人が一人のおばさんだけになりました。カゴには洗剤やらスポンジやらたくさんの品物がいっぱいに入っていました。私は，レジでの会計が終わるには，さらに多くの時間がかかるだろうなと覚悟しました。その時です。そのおばさんが，ちらっと私の手の1本だけのボールペンの替え芯を見て，こう言いました。「お先にどうぞ」と。

私はびっくりしました。おばさんも長く待ってイライラしていたはずなのに，1つの品物の会計が終われば，すぐに帰れる私のために順番を譲ってくれたのです。私はお礼を言うとレジでの会計を済ませて，うれしいことに考えていたより早く店を出ることができました。

私は，家に帰る車の中で考えました。「優しい人もいるものだな」と。また同時に思い出しました。実は去年，私は逆のことをしたことがあったのです。全く違うスーパーマーケットのレジで，私の後ろに並んでいたおじさんが，果物を1袋だけ持っていたので，この前の日曜日のおばさんのように順番を譲ったことがあったのです。それを思い出したら，まるで優しさが巡り巡って自分に戻ってきたような気になりました。こんなことを表した「ことわざ」が**『情けは人のためならず』**なんです。

「人に優しくしてあげるということは，その人のためではなくて巡り巡って自分に返ってくるから結局は自分のためになり，優しさの溢(あふ)れる世の中になるんだよ。」というのがその意味なんです。人に優しくすると，優しくされた人は，その他の人に優しくします。そうして優しさは社会に広がり，みんなが互いに思いやる住みよい社会になっていくのです。「優しさ」って，すごい力を持っている思いやりの心だと思いませんか。船引小学校みんなの教育目標の一つ「やさしく」は，そんな素敵な心を持とうということなのです。

これは5月10日の全校放送集会で話した内容です。